

## ◆第97回研究会・共同企画 2007★川崎の産業再生(活動記録)◆

### 企画■「産業再生・拠点整備・住宅供給による川崎の持続的発展を考える」

(都市と住宅を考える会+teku-tekuによる共同企画)

日時■2007年3月21日(水・祝) 13時半～17時頃

コース■川崎駅周辺(アゼリア+銀座街+銀柳街)～ラ・チッタデッラ～ミューザ川崎～ラゾーナ川崎～

(電車で移動)～鹿島田駅周辺開発(サウザンドシティ+パークシティ新川崎)～新川崎駅周辺再開発

(工事中現場)～K2タウンキャンパス<見学+ディスカッション>

参加者■◎小林延秀+藤原 徹+双川華子、大竹 亮、梶川義実、栗原 徹、佐々木龍郎、清水俊哉、

田村憲二、古里 実(合計10名、敬称略、◎コーディネーター)

企画主旨■「京浜工業地帯」の中心地川崎はその姿を大きく変えようとしています。キャノンや富士通など最先端科学技術の集積が進み、かつてのイメージを払拭する環境技術も国際的貢献ができるポテンシャルの蓄積となりました。また、中国などの急成長の刺激をうけ、製造業・物流が活発化し、新陳代謝を続けながら持続的に発展してきました。一方、大規模工場の移転などによって生じる土地の活用により、昨秋オープンで話題の「ラゾーナ川崎」をはじめとした商業拠点開発・マンションの大量供給が活発です。特に新駅設置によって開発が進む武蔵小杉は、現在マンション供給ラッシュを迎えています。

このように、産業再生・住宅供給とも活況を呈している川崎は、「新総合計画川崎再生フロンティアプラン」(2005)を中心に、時宜を得た政策と経済活動が連動し、産業再生と都市拠点の整備、住環境の整備のバランスの取れた発展の好例であるかと思います。今回は、変貌する川崎駅周辺を見学するとともに、臨海部再生プログラム(2003)と住宅基本計画(2005)に注目し、川崎市の持続的発展の検証を試みます。

### <実施レポート>

今回の研究会では、川崎市南部の拠点開発整備及び住宅供給を見学し、今後の臨海部での展開を中心に意見交換を行った。

#### 1●川崎駅周辺

JR川崎駅に集合した参加者は、まずは川崎駅東口周辺の開発を見るために移動を開始。川崎駅にはペデストリアンデッキはなく、アゼリアという地下街が駅とバス乗り場、周辺ビルとをつないでいる。アゼリアを歩き、京急川崎駅前の地上に出る。東口には駅から海側に向かって大通りが走り、それに直行する形で、京急川崎駅そばから銀座街、銀柳街というアーケードの商店街が始まっている。チェーン店が多い商店街ではあるが、活気はそれなりにあり、路上に止められた大量の自転車と、はみ出した商品棚の間をぬいながら歩く。商店街が途切れた先には、イタリアの山岳都市をイメージしてつくられた(と思われる)複合商業施設ラ・チッタデッラがある。ここでは、隣接するビルも便乗して外壁の塗装がラ・チッタデッラと同じようなテイストになっているなど、開発の影響が周りへ広がっていく様子を見ることができ、面白い。

その後、駅西口の超高層住宅開発やシンフォニーホール・ミューザを巡り、昨年秋にオープンした大規模商業施設ラゾーナ川崎に向かう。ラゾーナでは、駅と反対側の公園広場と駅側の中庭型の広場という2通りの広場がうまく使い分けられている。そのままJR川崎駅から南武線で鹿島田駅に向かう。

#### 2●南武線鹿島田駅前、横須賀線新川崎駅周辺

鹿島田駅前では、サウザンドシティやパークシティ新川崎といった高層棟と中層棟の組み合わせからなる集合住宅群を見学。足元には商業施設や植栽を配置し、ヒューマンなスケールを意識した計画となっている。

さらに、将来的には鹿島田駅とデッキで繋がる予定の横須賀線新川崎駅まで移動し、線路に沿った形状で、現在工事が進みつつある再開発地帯の脇を歩き、慶応大学のキャンパスであるK2タウンキャンパスに向かう。

#### 3●K2タウンキャンパスでの意見交換

K2タウンキャンパスの会議室を借りての意見交換会では、臨海部については、このところ好況であり、みなとみらいのように用途転換していくのではなく、インフラを活かし、工業都市として発展していく方向であり、そのなかでも伸びているところを伸ばすための産業政策が課題として挙げられた。

住宅供給については、現在商業地域での高層住宅の供給をどのように既成誘導していくのが課題として挙げられ、それに対し、参加者からは、高層住宅の足もとの作り方がカギになるのではないかといった意見や、特に公開空地の弊害について意見が出された。

研究会を通じて、参加者には変化しつつある川崎を感じて頂けたのではないかと考えている。(双川華子)

※このレポートは、TMU都市と住宅を考える会会報126号より転載したものです。